



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

1950

ハイライト 1

1950年2月
東京電気化学工業株式会社設立



1950年、東京電気化学工業株式会社は東京芝浦電機株式会社（現・東芝）の乾電池工場（大船工場、鷺津工場）を創業者である志岐隆清と杉田忠嗣が買収する形から始まりました。朝鮮戦争特需の勢いもありマンガン乾電池の製造、販売で経営基盤を固め、事業拡大に繋げていきました。

ハイライト 2

1969年10月
東京証券取引所第二部上場



創業当時、静岡県鷺津町でのマンガン乾電池製造から始まった当社は、高度経済成長と電子工業の飛躍的発展の波に乗り、フェライトの製造販売に着手したことで急成長を遂げ、1969年10月1日に東京証券取引所市場第二部に上場しました。

1980

創業期

静岡県湖西市鷺津に創業。朝鮮戦争特需を背景に乾電池メーカーとして経営基盤を固め、後にフェライトの研究から電子事業にも着手。

1950年 東京電気化学工業株式会社設立
マンガン乾電池製造・販売開始

1958年 富士電気化学株式会社に社名変更

1959年 フェライト製造開始

1960年 コアメモリ製造開始、電子部品業界に進出

1967年 アルカリ乾電池製造開始

1969年 東京証券取引所第二部上場

1972年 富士通グループに入る

1973年 DC-DC コンバータ発売

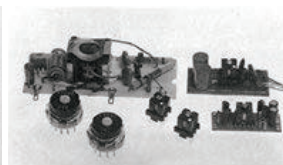
1975年 ステッピングモータ発売



ノーベル乾電池(マンガン)



ノーベル乾電池(アルカリ)



DC-DC コンバータ

当時のコア技術

■ 粉体技術

■ 冶金技術

■ 量産技術

■ 材料技術

FDKグループの技術は1950年の創業当時の主製品であるマンガン乾電池の二酸化マンガンや炭素粉といった「粉」を取り扱う粉体技術や、粉を加工する冶金技術から始まりました。

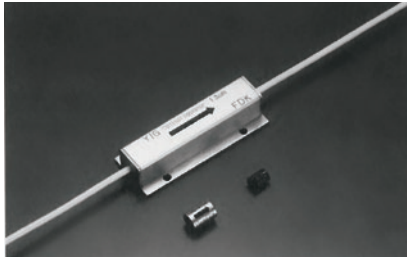
1960年代にはテレビの爆発的な需要増により、ブラウン管で使用するフェライト（偏向ヨーク）が大幅に伸長し、マンガン乾電池で培った粉体技術や冶金技術が製品製造を支えました。

1970年代には冶金技術を応用したセラミック製品であるプザーや無線・通信機器用の誘電体フィルタ、ノイズフィルタを製造、販売いたしました。

1981

ハイライト1

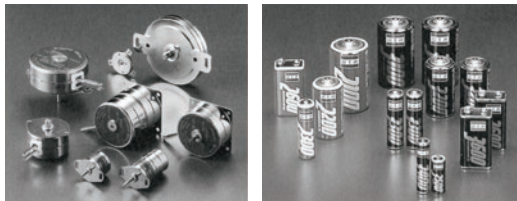
1982年
富士電気化学と情報通信を支えた
光アイソレータ開発



1980年以降、大量の情報を高速で伝達する光ファイバー通信が実用段階となり、YIG単結晶を用いたアイソレータや、光スイッチが光通信における重要材料として注目され、1982年に高性能光アイソレータ、光アイソレータモジュールを開発し、日米情報伝達の中核として役割を果たしました。

ハイライト2

1984年9月1日
東京証券取引所第一部上場



1979年の第二次石油ショックの影響を受け、厳しい経営環境が続きましたが、積極的な設備投資と生産体制の拡充、合理化によりフェライト、ステッパモータ、磁気ヘッド、リチウム電池、アルカリ乾電池、高性能マンガン乾電池が伸長し、1984年9月1日に東京証券取引所市場第一部上場を果たしました。

2000

拡大・グローバル化

電子事業の開花と、リチウム電池の発売。日本からグローバルへ生産拠点と販売網の拡大。

1981年 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立、ロータリートランス発売

1982年 光アイソレータ開発

1983年 リチウム電池発売、トナー発売

1984年 東京証券取引所第一部上場

1992年 FDK ELECTRONICS GMBH 設立、無水銀アルカリ乾電池発売

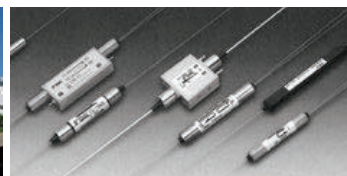
1993年 光スイッチ開発

1994年 XIAMEN FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立
(現: XIAMEN FDK CORPORATION)

1999年 積層チップパワーインダクタ発売



XIAMEN FDK CORPORATION



光通信用部品



ロータリートランス

当時のコア技術

■ 磁気回路技術

■ 積層技術

■ 電池加工技術

■ ハイブリッド・モジュール技術

■ 無水銀・無カドミウム技術

1980年代にはそれまでに培った粉体技術と冶金技術を応用した磁気回路技術をもって、VTR（ビデオテープレコーダー）で使用されたロータリートランスやフロッピーディスクで使用された磁気ヘッドが開発・製造され当時の主製品となりました。

1990年代には携帯電話が流行し、ハイブリッド・モジュール技術をもってVCO（電圧制御発振器）を開発・製造し、電波発信機能で使用されました。

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

2001

ハイライト 1

2001年1月
FDK株式会社に社名変更

FDK

2001年1月1日、創立50周年を機会に社名を「富士電気化学株式会社」から「FDK株式会社」に改めました。電子製品の登録商標であった、「FDK」に社名を統一し、グローバル企業グループとしての姿勢を示し、21世紀に向け新生FDKが誕生しました。

ハイライト 2

2025年3月
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATIONが筆頭株主に

SILITECH × FDK

2025年3月21日、SILITECH社による当社株式のTOBが完了したことにより当社は1972年から所属していた富士通グループから離脱し、SILITECH社が当社の筆頭株主となりました。当社は、SILITECH社との様々なシナジーで企業価値を向上させ、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

現在

成長のための選択と集中

効率的な生産体制とコスト削減によるローコストマニュファクチャリング体制。
コア事業での利益ある成長と新事業の立ち上げ。

- 2001年 FDK株式会社に社名変更
- 2002年 世界最小の可変光アッテネータを開発
- 2009年 ステッピングモータ事業をミネベア株式会社に譲渡
東京証券取引所市場第二部に指定替え
- 2010年 三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社(ニッケル水素電池事業)および三洋エナジー鳥取株式会社(リチウム電池事業)を譲受
- 2012年 低自己放電型ニッケル水素電池発売
- 2015年 光部品事業を湖北工業株式会社に譲渡
富士通テレコムネットワークス株式会社より、電源事業を譲受
- 2018年 新事業への投資のための第三者割当による第1回新株予約権の発行
- 2019年 フェライト・コイルデバイス・積層パワーインダクタ・セラミックス部品事業を
長野日本無線株式会社に譲渡
SMD対応全固体電池のサンプル出荷開始
FDKグループ戦略Framework「10年の計」を公表
- 2020年 FDKグループ経営理念を制定
- 2022年 東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行
- 2023年 Bluetooth® Low Energy モジュールのサンプル出荷開始
- 2024年 BAOTOU SANTOKU BATTERY MATERIALS CO., LTD (電池材料および希土合金)を譲受
- 2025年 SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION が筆頭株主に



旧三洋エナジートワイセル株式会社
(現高崎工場)



旧三洋エナジー鳥取株式会社
(現鳥取工場)



旧BAOTOU SANTOKU
BATTERY MATERIALS CO., LTD
(現BAOTOU FDK CO., LTD.)

現在のコア技術

■ 電気化学技術

■ パワーエレクトロニクス技術

■ 回路技術

■ ファイン印刷技術

■ 高密度実装技術

■ CAE 技術

■ 素材技術

2000年頃にはパワーエレクトロニクス技術が台頭し、液晶パネルなどで使用された画面を発光させるインバータトランスが事業を支えました。
その後、2010年には三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社と三洋エナジー鳥取株式会社を譲受し、電池が事業を支える時代となりました。
電池の開発においては希土材料を扱う素材技術と、電池製品と電子製品を組み合わせる電気回路技術が培われました。
また、近年では今までに培ってきた粉体技術や積層技術、素材技術を用いた全固体電池やニッケル亜鉛電池、株式会社三徳より譲受したBAOTOU FDKにて水素吸蔵合金の製造・開発を行なっております。

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社